

園名

二葉幼稚園



テーマ

ボールを使って

設定の理由

幼児は「情動・感情(楽しい！面白い！)」と「認知・思考(～してみよう、試す)」が行ったり来たりしながら遊びを楽しみ、思考力や探究心が育まれる。また、心が動き、自然と体が動く中で、「こうしてみようかな」「こうかもしれない」「やっぱりそうだ」など体全体を使って思考する。

ボールは子どもにとって身近なもので、非常に変化に富み、軽くて柔らかいので使いやすく安全であり、一人でも大人数でも楽しく遊べる。したがって、人間関係をつなぐものとなる、などの特性があり、幼児の「好奇心・探究心(わくわく)」育むことができるのではないかと考えた。

対象年齢

4歳児
5歳児

事例① ～ボールころころ～ 4歳児

坂道を作り、高いところから低いところに繰り返し転がしたり、坂道を転がりやすいボールを工夫したりしながら、ボールが転がる特性や高いところから低いところに転がる規則性を全身で味わった。

環境のデザイン

もの ボール・・・ティッシュ、京花紙、セロハンテープ

- ・ 幼児が「〇〇したい」「こうしたらどうなる」という思いを実現できるような物を用意する

場 坂道・・・中型積み木、板積み木

- ・ 自分の坂道があることで一人一人が十分に試して遊ぶことができる
- ・ 近くに友達と一緒にいる心地よさや嬉しさを感じていることがあるので、保育者は幼児が友達と一緒に心地良くいることができる場所を保障する。



探究活動を実践する

●活動内容

自分でボールを作り、積み木で作った坂道のところで、何度も転がす。

●子どもたちの様子

- ・ 「ここに当たったらゴールね」など、思い思いに言う。
- ・ 「3, 2, 1, それ」と言って転がす。
- ・ 自分で作ったボールを二つ一緒に転がす・
- ・ 大きいボールと小さいボールと一緒に転がすと、小さいボールの方が先に床に着いた。それを見て「小さいボールの方が速いんだよね」と言う。

振り返りをふまえた気づき

●園の先生たちの気づき

- ・ 繰り返し遊ぶことができる環境を整えることで、何回も転がして遊ぶ姿が見られた
- ・ ボールを好きな大きさに変えられる材料だったため、ボールの比較ができた
- ・ 一人でも友達とでも楽しめていた
- ・ 手作りのため、真っすぐは転がらない面白さがあった。また、自分のボールを大切にしている姿も見られた。

事例② ～ドッジボール～ 5歳児

園庭に自分たちでコートを作り、チーム分けをしてドッジボール始める。ボールが行ったり来たりする中で、相手に合わせて動く、ボールに合わせて動く、チームが勝つために動くなど、「感じ」、「多様に」、「考えて」動くことを楽しむ。

環境のデザイン

ボール・・・持ちやすく投げやすいボール

コート・・・人工芝用ラインテープ

- ・ 幼児が動きやすいスペース、ボールを投げて届く距離の大きさ。
- ・ ラインテープを長い巻き、短い巻きで用意し、長い巻きの中央に印を付ける。
- ・ ラインテープを立てて片付け、長短が分かりやすくする。



探究活動を実践する

●活動内容

コート作り、チーム分けなど自分たちで行い、勝ったり負けたりを繰り返す中で、体全体で考えて動くことを楽しむ。

●子どもたちの様子

- ・ 速いボールを投げる友達の投げ方を見て真似して投げる。
- ・ 投げるのが上手な友達にパスすることでチームが勝てるようにする。
- ・ 相手に取られないように山なりのボールでパスをする。

振り返りをふまえた気づき

●園の先生たちの気づき

- ・ 道具、場、コートの大きさ、ボールの素材など教材研究を丁寧に行い、幼児の実態に合わせて用意することが大切である。

●講師の指導から

- ・ 準備体操、コートの準備、人数確認、ゲーム進行、勝敗、片付け、振り返りという流れを幼児が自ら行っており自信をもって取り組んでいる。また、勝つためにはどうするかを考えて動いている。幼児の気づきや考えたことを映像で振り返ることも遊びの質の深まりにつながる。